



まほろん通信

VOL. 58

(平成 28 年 1 月 15 日発行)
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
福島県白河市白坂一里段 86
TEL 0248-21-0700 (代)
FAX 0248-21-1075
ホームページ [まほろん](#)



まほろん感謝デー

師走に入って初めての日曜日に、日ごろご利用いただいている皆様への感謝の気持ちを込めて、イベント「まほろん感謝デー」を開催しました。今回は、新たな体験メニューと、子供を対象とした展示解説会、アクアマリンふくしまの移動水族館などの盛りだくさんの内容で、1,300人を超える方々に来館していただきました。

館内で行われた「わくわクニイさんとゆかいな仲間の工作教室」では、多くの家族連れがカラムシやアケビヅルなどの自然素材を使ったアクセサリやリースづくりを体験し、大昔から自然とともに生活の中で育まれた伝統の技術を体験していました。また、まほろん職員扮する“わくわクニイさん”が、失われつつある古来の編み組み技術である箕（穀物を選別する道具）やカゴをつくる実演をしました。

館外で行われた「もちつきと鏡もちづくり体験」では、千本杵を用いたもちつきをする子供たちの「よいしょ！よいしょ！」という元気なかけ声が、響きわたっていました。つきたての餅は、温かいうちに子供たちの手でまるめられ、カワイイ鏡もちに変身していました。また、縄文時代の家で行った「縄文カフェ」では、縄文時代の生活に思いを馳せながら、ドングリコーヒーと縄文クッキーのセットメニューを味わっていました。

まほろんでは、これからも利用者の皆様から頂いた貴重なご意見を活かしながら、愛されるまほろんを目指してまいります。

体験学習

「茶わんづくり」の様子

おおぼりそうま やきかまもと やまだしんいち
大堀相馬焼窯元の山田慎一先生のご指導のもと、実技講座「茶わんづくり」(全2回)を行いました。講座は、粘土をこねるところから始まり、手で形を整えていくという本格的なもので、絵付けも参加者自身で行います。みなさんは焼きあがった状態を想像しながら、楽しそうに製作を進めていました。手びねりで作ったお茶わんは、世界で唯一の貴重な物ですので、どうぞ大切にご使用ください。



＜形づくりの様子(中央が山田先生)＞

「古代の印章をつくろう」の様子

11月8日(日)、11名が参加して、「古代の印章をつくろう」が実施されました。最初に、印章の歴史などを職員が解説した後、受講者は自分の名前などをもとに、古代から印章で用いられた字体である「篆書」など、思い思いのデザインを、印面と同じ2cm四方の枠に描きました。これを材料となる高麗石の印面に転写してから、専用の篆刻刀を使って彫り込みました。

文字の部分が浮き出る陽刻より、彫りこまれる陰刻が比較的簡単ですが、今回は難しい陽刻にチャレンジする参加者が何人かいました。非常に細かい作業でしたが、皆さん、集中して作業にあたり、無事に完成させていました。



＜篆刻刀を使っての彫り込みの様子＞

「ミニチュア鏡をつくろう」の様子

11月29日(日)に、古墳時代の鏡をモデルにしたミニチュアの鏡づくりが行われました。はじめに、銅鏡や信仰の中の鏡などの解説や製作方法・注意点について説明を行いました。

いよいよ、鑄型粘土で鏡の型をとる作業からスタート。上手に型をとることができれば、半分は成功したのも同然です。型取り作業では、皆さん納得いくまで何度もチャレンジしていました。

次に、鑄込み作業です。溶けたアロイ(合金)を、鑄型に一気に流しこみます。古代から行われてきた「鑄物」をつくる方法を、初めて知ったという参加者もいました。冷めたら鑄型の中から鏡を取り出し、鏡面の磨き作業に移ります。根気のいる作業ですが、磨けば磨くほどピカピカの鏡になるということで、皆さん一生懸命に磨いていました。最後に、大切な宝物が完成し、満足した笑顔を見せていました。



＜型取り作業の様子＞

第15期まほろん森の塾

今年の名場面

まほろん森の塾は、昔の暮らしや技術を体験して学ぶ通年の講座です。全6回の講座では、石器づくりや昔の料理作りなどの様々な体験を行いました。



＜発表会の様子＞

なかでも、7月26日(日)に行われた第3回森の塾の発表会では、塾生たちが作った

埴輪や木の皮で編んだ作品を展示し、その歴史を来館者に解説しました。いつもは元気いっぱいの塾生も緊張していましたが、本番では、来館者を前に一生懸命解説していました。

これらの活動の様子は、常設展示室で紹介していますので、ぜひご覧ください。



＜11月に行った終了式の様子＞

入館者 45 万人達成

入館者 45 万人記念セレモニーの様子

まほろんでは、平成 13 年 7 月 15 日開館以来の入館者が 45 万人に達し、12 月 5 日（土）に記念のセレモニーを行いました。

45 万人目となったのは、西郷村の鈴木美優さん。菊池館長と一諸に、くす玉を割って 45 万人達成を祝いました。

美優さんには、花束のほか、館長の著書「はじめての考古学」や、職員が手作りした土偶付きのクリスマスリースなどの記念品をプレゼントしました。

菊池館長は、45 万人達成をお祝いしていただいた大勢のお客様を前に、「入館者 50 万人に向けて、まほろんをもっと魅力のある施設にしていきたい」

と挨拶しました。



〈プレゼントのリースを手にする美優さん（右から2番目）〉

企画展示案内

コラボ展 まほろん&発掘ガール「猪苗代湖周辺の考古学」

会期：平成 28 年 1 月 9 日（土）～2 月 14 日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

郡山女子大学短期大学部と共同主催で、同短大が発掘調査を行ってきた会津若松市笹山原遺跡No. 16 の出土品とまほろん収蔵資料とを対比した、コラボレーション展示を行います。コラボ展では、笹山原遺跡No. 16 と一里段 A 遺跡（白河市）・大谷上ノ原遺跡（楡葉町）の旧石器時代の石器、塩喰岩陰遺跡（西会津町）の縄文土器、登戸遺跡（猪苗代町）・上吉田遺跡（会津若松市）の平安時代の土器などを比較し、旧石器時代から平安時代までの猪苗代湖周辺の暮らしぶりを浮かび上がらせます。



しおばみいわかけ

また、展示期間中、郡山女子大学短期大学部の“発掘ガール”による、発掘調査に関するパネル展示、展示解説会も行います。展示解説会は、1 回目は 1 月 9 日（土）、2 回目は 2 月 6 日（土）、両日も 15 時 30 分から実施します。

実際出土品、講演会・解説会を通して、当館及び郡山女子大学短期大学部の取り組みを県民の皆様にご覧いただきたいと思っております。

企画展「縄文土器の年代—その古さを読み解く」

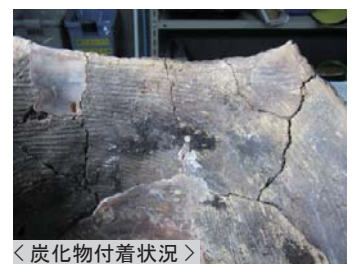
会期：平成 28 年 3 月 5 日（土）～5 月 8 日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

「縄文土器が何年前に利用されたかはどのように分かるの?」、「縄文人は何を食べて暮らしていたの?」…文字もなく、言葉もわからない古い昔のことがどうしてわかるのか、不思議だとは思いませんか。

この展示では、そのような皆さんが知りたい素朴なテーマをわかりやすく解説します。土器をよく観察し調べることで、当時の暮らしが分かってくるのです。土器は地域や年代によって、形や文様に違いがあります。この変化を時代の「ものさし」として使います。

また、土器に付いたコゲやスス（炭化物）を調べることで、当時の人たちによって何年前に使われて、何を料理したのかが、最近の



〈炭化物付着状況〉

研究では推測できるようになってきました。

これらの研究成果を踏まえ、県内各地から出土した縄文時代草創期から前期初頭までの土器群を一堂に展示します。



〈縄文時代早期の土器（当館収蔵）〉

講演会・研修会だより

新年も、注目の講義が目白押しです！

1月23日（土）は、文化財と関連科学研修「縄文早・前期土器群とAMS年代測定」を開催します。縄文時代早期から前期初頭の土器について考えるとともに、当館収蔵資料の年代測定結果も紹介します。なお、開講時間が13時から15時15分で、通常の研修会と異なりますので、ご注意ください。

2月20日（土）は、文献史学と考古学の信頼できる資料に基づいて、地方史を解明する方法を学ぶ地方史研修「遺跡と史料にみる慶長五年の白河」です。関ヶ原の戦いが起きた慶長5（1600）年の白河

を舞台に、上杉氏の動向に関する従来説の問題点と、新しい学説の根拠を解説します。以上の研修会には、事前申し込みが必要です。

2月6日（土）は、館長講演会「地下の物たちに過去を語らせよ—近代考古学の誕生—」で、今年度の最終講義となります。

3月5日（土）は、同日開幕する収蔵資料展に関連する文化財講座「縄文土器の地域性（浜通りの特性を中心に）」です。早期の土器群からみた浜通り地方の地域性について、当館収蔵資料を観察しながら解説します。

シリーズ収蔵品紹介 22

郡山市 正直 A 遺跡出土の大型土師器壺

正直 A 遺跡は、郡山市田村町正直字蓮沼に所在し、国営総合農地開発事業母畑地区に伴って発掘調査が実施された古墳時代から奈良・平安時代の集落遺跡です。調査の結果、竪穴住居跡 97 軒・掘立柱建物跡 3 棟・祭祀跡 3 か所・土坑 162 基・粘土採掘穴 1 基などが発見されています。特に、古墳時代中期（南小泉式期）の竪穴住居跡には、1 辺が 7 m を超える大型のものも 6 軒あり、この地域の拠点的な集落であったことが窺えます。また、祭祀跡からは多量の土師器杯や高坏・壺・甕などの土器類とともに石製模造品が見つかっており、竪穴住居跡の中でも石製模造品の製作工房と考えられるものが 1 軒あります。



<52 号住居跡出土の土師器壺>

写真は、52 号住居跡から出土した土師器壺です。意図的に



<土師器壺出土状況 (52 号住居跡)>

割られた状態で出土し、体部下半が欠損しており、口径 25.6 cm・遺存高 49 cm・最大径 57.8 cm を測ります。内面は器肌の荒れが甚だしく、荒れの状態を細かく観察すると、斑状の剥離痕が一面に広がっており、加熱によるものではなく、水分の影響で器肌が剥がれたような状態です。これは長期間の液体貯蔵に起因する器壁の剥離と推定されています。同時に、二次加熱を受けた土師器杯・広口壺・甕、石製模造品の製品（双孔円板・剣・勾玉）・未成品や原石などが散乱した状態で出土しています。

52 号住居跡は、意図的な土師器壺の破壊や石製模造品の散乱を考慮すると、祭祀に関連する工房がその役目を終え、集落全体が終焉を迎えた際に行われた祭祀の一例とも考えられます。

（専門学芸員 高橋 信一）

冬のまほろん

この冬は、雪が少ない予報。お出かけもしやすいのではないのでしょうか。

そこで、冬も多彩な行事が目白押しのまほろんに、ぜひどうぞ！1～3月のお知らせを発行。ホームページからもダウンロードできます。



ご利用案内

- 開館時間** 9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～1月3日）
入館料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）
その他 団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。